

2019年4月5日

CVIT 会員 各位

日本心血管インターベンション治療学会
レジストリー委員会 委員長 天野哲也

2018年度施設訪問によるデータ照合（Audit）についての報告と注意事項

平素より日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）の登録事業にご協力いただき誠にありがとうございます。

当学会では、会員の先生方から入力していただいておりますデータの質を担保するため、施設訪問によるデータ照合（Audit）を2014年より実施しております。具体的にはランダムに選定させていただいた施設に担当者が赴き、約20症例の入力データと診療記録との照合を行っております。このAuditの大きな目的は、以下の三点としております：

- ① システム上で改善できる点や入力を誤りやすいポイントなどを探索する
- ② 診療記録の照合を行い、入力されたデータの整合性を確認する
- ③ データを入力されている現場の先生方のご意見を直接お伺いする

総じてCVIT内の各データベースが会員の先生方、そして社会全体から広く信頼されることに繋がるようこちらの作業を進めさせていただいております。今後も本データは 保険委員会と外科系学会社会保険委員会連合との折衝、学術委員会、専門医認定医制度審議会等で建設的に使用されていく予定です。

2018年度には計42施設でAuditが実施されました。その際に課題となりました事象を皆様と一部共有させていただきます：

- 昨年度のAuditでも認められたことですが、第一術者・指導者についてJ-PCI上の登録とカテテルレポートやカルテ上の記載で齟齬がみられることがありました。こちらは今後専門医認定医制度の充実に伴い、カルテ上に明確な記載が求められることが予想されておりますので、引き続きご注意ください。
- 特定の項目に意図的と思われる一貫したエラーが認められ（例、すべての手技成功が「不明」等）、修正 並びに 他の症例での確認をお願いしております。
- 「死亡」に関する質問は多くございました；このことを受けまして本年より院内の「全死亡（理由を問わない）」をまず登録いただき、その後に「心臓死・非心臓死・手技関連死」を選択する形式とさせていただいております

特に、今回、比較的多くの施設で見受けられた、症例の重複登録、術者の誤登録は、施設および個

人の資格申請に大きく関わってくるところですので、会員の先生方への周知を強化する方向で現在議論を進めております。

あまり前例はございませんが、Audit 結果報告書を受けて、レジストリー委員会より、問題ありと判断された施設は、次年度以降、再度 Audit を受けていただき、拒否された場合および問題点が改善されていなかった場合は、専門医認定医制度審議会の審議を経て、施設認定資格を取り消すこともあるという規定がございますので、ご留意いただけますよう、お願いいたします。

どうか皆様のご継続的なご理解とご協力のほどを何卒よろしくお願いいたします。

以上